

一、国会議員として過ごした四半世紀の時代と、現在の政治情勢について

この四半世紀は、一言で言えば新たな時代に向けたカオス(混乱)の時代だったと思います。米ソ冷戦構造の崩壊後、自由で民主的な市場経済に基づく経済の繁栄が期待されましたが、逆に、世界は「混乱と対立の時代」に入りました。具体的には、新興経済国の中国・インド・南アフリカ・ブラジル等の発展に伴い、世界のパワーバランスが大きく変わってしまいました。さらに、中東の独裁国家が崩れたことで世界の混乱がさらに加速化。日本を含む先進国では、中間層が没落し、経済格差が拡大しています。

現在起きているアメリカでのトランプ現象やヨーロッパでのネオナチイズムの台頭等は、経済の行き詰まりと格差拡大による不満層の増大に端を発していますが、私は、日本でも今同じ現象が起きているのではないかと感じています。すなわち、安倍内閣の支持層は保守層の中でも右翼系の思想を持った人たちが中心であり、今もなお高い支持率を得ているというのは、日本における欧米の現象が安倍内閣の支持という形で表れているのではないかとことです。



安倍総理自身がどこまで思っているかはわかりませんが、例えば、企業に賃上げや設備投資をやれと、法制度を抜きにして口先で介入してくる。このような傾向は、戦前の日本に見られた国家社会主義的な発想に酷似しており、日本社会の健全な発展には決して好ましいことではありません。このまま安倍政権の強権・重商主義的な政治が続けば、日本の社会の結末が保てず、変な世の中になってしまうのではないかと危惧しています。やはり、早く脱安倍イズムの政治を目指す必要があり、これは我々民進党の役割であると思っています。

二、24年の議員生活の中で、特に印象に残っていることについて

一つ目は2009年の**政権交代**です。当時民主党の政調会長としてマニフェストをとりまとめ、毎週のようにメディアに出て政策を訴えました。政権交代が実現した時は本当に嬉しかったです。もともと政治家としての目標が、政権交代可能な政治体制をつくることでした。

長期政権は必ず腐敗しますから、政治に緊張感を生むためにも、政治の側から国民に選択肢を提示し、選んでもらう。このことが極めて重要ですが、民主党政権が3年3ヶ月で終わり、政権交代のメリットを国民にしっかりと享受していただけなかったことは残念でした。

二つ目は**経済産業大臣として仕事**をさせてもらったことです。経済産業省は、自動車を始め産業・貿易・エネルギーと管轄範囲が広く、政治的に大きな影響力を持つとともに、民間との窓口的な役割を担います。

私は民間企業で育ってきたので、そこでの仕事は非常に肌感覚が合いました。グローバル化が進む中、通商国家日本としての国益を守るために、EPA・TPP・RCEPなどを推進していくことが大切と考え、在任中は世界を飛び回りました。しかし、海外との関係は、やはり国益と国益のぶつかり合いなのできれいな事では済みません。よって、タフな交渉が続き多忙を極めました。外国へは1年間に15回出張し、ほとんど夜行便で行き、夜行便で戻ってきました。日曜日の国際会議に出た後、月曜日午前中の予算委員会に出席することも珍しくありませんでした。

三、国会では「働く者・自動車産業の代表」としての主義・主張を貫きましたが、そこに込められた思いと、今後の課題について

「働く者・自動車産業の代表」とは私の政治家としての立ち位置です。この国の経済・社会は、人口の半数近くを占めている日々こつこつ働き、納税をする方々がいてこそ成立します。

だから、この人たちの生活が安定する、将来が見通せる、先に希望が持てるという状況になれば、日本の社会も自ずと安定するとの思いからです。

しかし、現在は、これまで経済・社会の中核を担ってきたこの層が分裂して格差が開いています。原因は様々ありますが、特に4割にまで増加した非正規労働者が大きな要因です。

これに対し政治がやるべきことは、最低賃金を上げる、また、私たちは「同一価値労働同一賃金」と言いますが、同じ仕事をしていれば時間あたりの賃金は一緒という基本ルールをつくり、正規と非正規の処遇の差を埋めていく。

さらには、収入面以外の税制や社会保障などについても、所得に応じた負担をしていく仕組みを取り入れるなどして、再び分厚い中間層を復活させることが重要だと考えています。

特に結婚可能な若年層や子育て世代の可処分所得を増やすことは、今後の消費が一番増える層でもあり、国内経済好転の面からも有効です。

また、自動車産業で言えば、これまでもずっと取り組んできましたが、車体課税は減らす、もしくはなくすべきだと考えています。これは、国民の負担を軽減することはもちろんのこと、日本経済の不動の4番バッターである自動車産業の裾野の広さからしても、国内産業全体の底上げに寄与するものだと考えています。

四、最後に、働く仲間や次代を担う若い人たちへのメッセージ

皆さんには、政治の仕組み、特に選挙の重要性をよくよくご理解いただきたいと思います。

選挙という民主的手続きで選ばれた人たちが国民生活に直結する様々なルールを決めるわけですが、717名いる国会議員は夫々に支援者が違い、そこには必ず利害が伴います。だからこそ、自分たちの立場や気持ちをわかる人を国会に送り出し、自分たちの代弁者として声を挙げてもらう必要があります。私は、生活者・納税者・消費者・働く者の立場に立って政治が出来るのは、民進党しかないと確信しています。

また、今日の政治の役割は、かつて経済が右肩上がりだった時代の「富の分配」とは違い、社会の維持に必要なコストを「国民にどう負担していただくか」が重要になっています。

当然それには国民との丁寧な合意形成が不可欠です。政治家には、安易にポピュリズムに陥ることなく逃げずに説明することが求められる一方、皆さんには、「今が良ければいい」という先送り政治のツケは、必ず自分に返ってくることを認識してほしいと思います。

かつての利益誘導型バラマキ一辺倒の政治が、今日の1,000兆円を超える国の借金を生み、子育てや介護など切実に困っている人にお金が回せない世の中を作ったのです。

「政治に無関心でも、無関係ではられない。」まずは自らの生活のために、政治に向き合い、ぜひ投票に行ってください。24年の経験から、私から皆さんへの願いです。

*事務局より 26期直嶋正行さん(前参議院議員)より北辰会へ24年間の議員生活の思いの詰まった文章が届きました。24年間ご苦労様でした。今後ともお身体に気をつけ活躍下さい。(太字、拡大強調文字は事務局にて校正致しました。)